若狭めのう細工のおはなし





奈良時代に信仰の一環でつくられたのが発 祥。江戸時代に入り、眼鏡屋に奉公し、玉づく りの技術を得た職人によって再興された。明 治時代には、彫刻の技術がもたらされ、繊細な 作品が作られるようになった





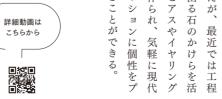


、古くから七宝の、、古くから七宝の、、古くから七宝の和工のルーツとしれ、炎のように鮮く半透明な色彩がの深みのある赤いの深みのある赤いがき入れ」というって生まれる。硬がため、できる製いため、できる製いため、できる製いため、できる製いため、できる製いため、できる製いため、できる製いため、できる製いため、できる製いため、できる製いため、できる製いため、











日本の貴石細工の



